

こんにちは 松坂みち子 です



日本共産党市議会議員 松坂みち子の活動報告
ご意見など、ぜひお寄せ下さい。

< 142 2013.8.18 連絡先 402-1622 >

ノーモア・ヒロシマ ノーモア・ナガサキ ノーモア・WAR ノーモア・ヒバクシャ



7、8、9日と、長崎で行われた「2013原水爆禁止世界大会・長崎」に参加しました。今回は爆心地にも行きました。「ここで68年前、5000度以上の熱で全てが焼かれ人間も蒸発してしまった、そしてそのまま2mの盛り土をしているだけであり、ここでは決してふざけたことをしてもらいたくない」という被爆者のお話を聞きました。断層が見えるところでは、お茶わんや湯飲みなどの生活用品がそのまま埋まっているのが見え、一瞬にしてこの世から消し去られてしまった方々の無念さが地下からにじみ出て、二度とこの様なことのない

ようにと訴えているように感じました。声なき声を受け止め、非人道的な核兵器をなくすためにできることを続けていこうと決意を新たにしました。

9日の平和祈念式典での田上長崎市長の平和宣言の一部をご紹介します。

「日本政府に、被爆国としての原点に戻ることを求めます。今年4月、ジュネーブで開催された核不拡散条約（NPT）再検討会議準備委員会で提出された核兵器の非人道性を訴える共同声明に、80か国が賛同しました。南アフリカなどの提案国は、わが国にも賛同の署名を求めました。

しかし、日本政府は署名せず、世界の期待を裏切りました。人類はいかなる状況においても核兵器を使うべきではない、という文言が受け入れられないとすれば、核兵器の使用を状況によっては認めるという姿勢を日本政府は示したことになります。これは二度と、世界の誰にも被爆の経験をさせないという、被爆国としての原点に反します。」

みち子のひとりごと あ・つ・い

全然知らない人でも、「毎日暑いです」で会話になる日々です。高気圧が二重になっていてお布団を二つかけてるような状態が続いているのだそう。高知県四万十市の41度を思えば、文句は言えないけれど、暑いものは暑い！私は大の汗かきで、じつとして汗が出ます。ハンカチではおさまらず、行儀が悪いとは思いつつ、汗をかきながら首タオルが離せません。寝るときは、エアコンが切れると目が覚めるのが嫌で扇風機でいりますが、暑くて目が覚めるので結果は同じようです。それにしても去年に比べ、「節電、節電」という声は聞かれないのは、きっと「原発が止まると電気は足りなくなる」という『実績』を作りたい人がいるからなのでしょうね。とはいえず、命が大事。熱中症には気を付けましょう。



安倍政権 9条骨抜きへ暴走

安倍内閣は8日、内閣法制局長官に、これまでの内部昇格の慣例を破り、小松一郎駐仏大使を起用することを閣議で決定しました。小松氏は海外での武力行使を可能とする集団的自衛権行使の積極容認派として知られており、同氏の長官任命は改憲のハードルを下げる96条改定と同様の「禁じ手」です。集団的自衛権の行使は憲法上許されないとしてきた歴代政府の憲法解釈を変更し、憲法9条を骨抜きにするための「改憲クーデター」ともいえる動きです。



ブラック企業大賞にワタミ

環境を作ることを目指して

違法な働かせ方で若者をつ

います。

かいつぶす「ブラック企業」の大賞を決める「ブラック企業大賞2013」の授賞式が11日、東京都内で行われ、「ワタミフードサービス」が大賞に選ばれました。

ワタミはネットによる一般投票でも1位に選ばれ、昨年の市民賞に続き2回目の受賞となりました。

同賞は労働組合や弁護士、NPO、ジャーナリストらによる実行委員会が昨年から開催。ブラック企業を生み出す背景や社会構造の問題を広く伝え、誰もが安心して働ける

ブラック企業の定義は労働法などの法令に抵触する労働を、意図的・恣意的に労働者に強いている。パワハラなどの暴力的強制に従業員に強い企業や法人、としています。

ワタミでは、2008年に

「ブラック企業」問題では、日本共産党が国会で真っ先に取り上げ社会問題化したこともあり、厚生労働省は9月から、過重労働や法違反の疑いがある企業を対象に立ち入り検査を行うことを発表しています。

入社2カ月の女性社員が月141時間の残業を強いられ過労自殺に追い込まれました。創業者の渡辺美樹氏（自民党参院議員）は現在も遺族の面談に応じず、謝罪も拒否しています。

（8月13日付赤旗）

旧山古志村の復興

「村」の復興のためには住民が戻らなくてはなりません。自力で家を再建できる人はいいですが、そういう人ばかりではありません。県は3000億円を借金して基金を作り、低利で必要な人に貸し出すという事業を行い、家の再建等の力になりました。それも難しいという人には、「村」始まって以来の公営住宅（4メートルの豪雪に耐える安価で良質なもの）を建設しました。

そういった努力の結果、7割の世帯、6割の人々が「村」に戻りました。県の基金を利用して、棚田を直したり、錦鯉の育成を再開したり、「村」の暮らしに戻っていきました。

公営住宅に住む一人の高齢の女性のお話を伺いました。70歳過ぎての大きな地震で、二晩道路に寝た・・・つらかった。という話に、市の職員が言われた「地震の被害は平等ではなかった」という一言を思い出しました。同じ村でも、地域によって被害が大きく違ったそうです。

別れ際に、「一人置いて行かれるみたい...」と言って、涙した女性の姿が忘れられません。

何をもって復興したと言うのか。東日本大震災の場合はこれからどうなる？必ず来るといわれる南海地震の場合は...。考えなくてはならないことの重さを感じました。